



青茅の輪残りの未来開きさう	吉田 政江
一隅に諦めぬ色余り苗	宮内とし子
城といふ日本のこころ楠若葉	楠原 幹子
蟄居してこころの糧の朴の花	千田 百里
我慢の限界カサブランカの蕾	辻 美奈子
刃物屋の鋼のほひ新樹光	能美昌二郎
弓なりの水緊緊と築を打つ	大沢美智子
夏草は男の匂ひ刈り伏せる	林 昭太郎
石打つて火花生む鋤耕せり	藤森すみれ
小満やきらきら海のひろごりて	菊地 光子
世に遠く生きたんぼの絮日和	佐久間由子
雷ならば豪快に来よ雨を連れ	大畑 善昭
遡る鮎は全身光る発条	田所 節子
紫蘇揉んで自愛の色を濃くしたり	安藤しおん
巢籠りや男の作る鰹飯	阿部眞佐朗
溶け出づる朴の香みちのくの闇に	七田 文子
強がりの裏の寂しさ黒百合は	町山 公孝
田を植うるさみどり深き晩年へ	岡澤 田鶴
八十八夜鏡の奥が騒がしい	関根 瑤華
潮の香の強き駅舎に夏兆す	平城 静代
大樗涼しさを生む木となりぬ	板橋 昭子
子午線の祀りの海や海霧深し	石崎 和夫
泰山木生まれ持つての新樹光	平松うさぎ
芒種かな夜雨の音のやはらかき	宮下 桂子
帰省子の靴玄関に落ちつかず	千葉 禮子
塹壕は城の語部草茂る	宮岡 弘
土管より覗く青空つくしんぼ	角口 秀子
万緑や比肩の友の書の力	関 妙子
麴室淡く灯れる緑雨かな	小倉 征子
庭中の若葉の中の柿若葉	中村 重幸

